

製品名: TdT ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab18769

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	60kDa

抗原情報

遺伝子名	DNTT
別名	DNTT; TDT; DNA nucleotidylexotransferase; Terminal addition enzyme; Terminal deoxynucleotidyltransferase; Terminal transferase
遺伝子 ID	1791.0
SwissProt ID	P04053
免疫原	抗血清はヒト DNTT 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 381-430

背景

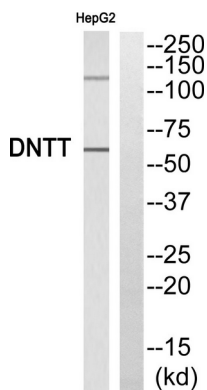
この遺伝子は DNA ポリメラーゼ X ファミリーに属し、オリゴヌクレオチドプライマーの 3'-ヒドロキシル末端へのデオキシヌクレオ

チド付加を触媒する鋳型非依存性 DNA ポリメラーゼをコードする。生体内では、コードされているタンパク質は、分化初期段階にある正常および悪性のプレ B リンパ球およびプレ T リンパ球の限られた集団で発現し、再構成された免疫グロブリン重鎖および T 細胞受容体遺伝子セグメントの接合部において非生殖系列エレメント (N 領域) を合成することにより、抗原受容体の多様性を生み出す。この遺伝子の異なるアイソフォームをコードする、選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが報告されている。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月],触媒活性: デオキシヌクレオシド三リン酸 + DNA(n) = ニリン酸 + DNA(n+1),補因子: マグネシウム,疾患: 特定の急性白血病細胞で非常に高いレベルの酵素活性が検出されています,機能: テンプレート非依存性 DNA ポリメラーゼで、DNA イニシエーターの 3'末端へのデオキシヌクレオシド 5'-三リン酸のランダム付加を触媒します。この酵素の生体内機能の 1 つは、B 細胞および T 細胞の成熟中に、再編成された Ig 重鎖および T 細胞受容体遺伝子セグメントの接合部 (N 領域) にヌクレオチドを付加することです。類似性: DNA ポリメラーゼタイプ X ファミリーに属します。類似性: 1 つの BRCT ドメインを含みます。サブユニット: PRP19 および DNTTIP1 と相互作用します。DNTTIP2 およびコアヒストンと三量体複合体を形成します。PCNA によってこの複合体から放出されます。

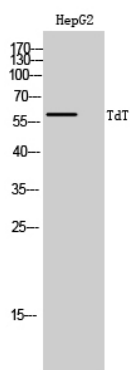
研究分野

非相同末端結合;造血細胞系統;

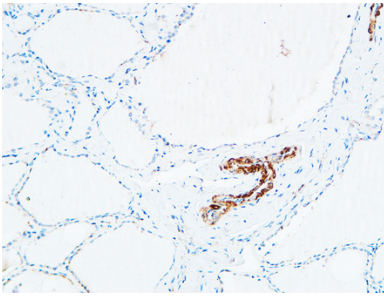
画像データ



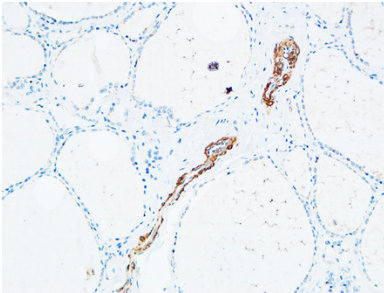
DNTT 抗体のウェスタンブロット分析。右レーンは DNTT ペプチドでブロッキングされている。



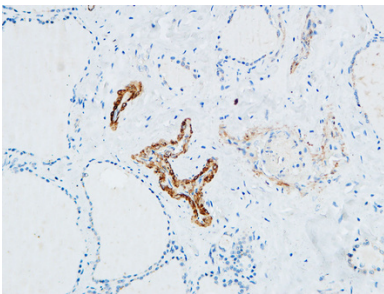
TdT ポリクローナル抗体を使用した HepG2 細胞のウェスタン ブロット解析。



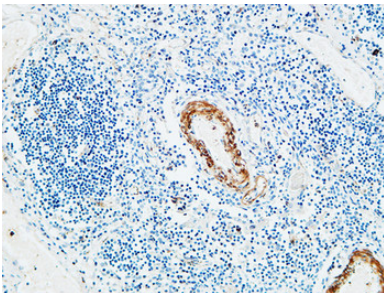
パラフィン包埋ヒト甲状腺の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



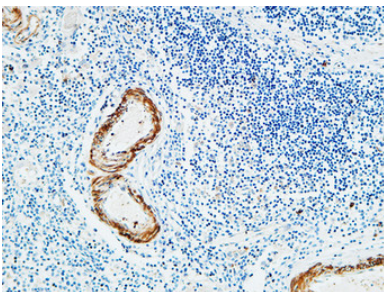
パラフィン包埋ヒト甲状腺の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



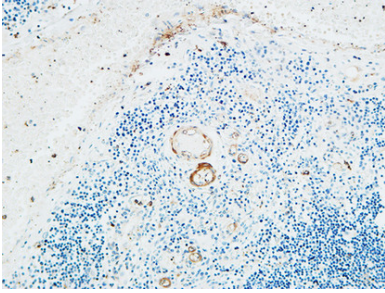
パラフィン包埋ヒト甲状腺の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト胸腺の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト胸腺の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト胸腺の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。